

S.C.WORKS 今週のスタディ！

【ヘッドライン】

- 1) 「DEAN&DELUCA、期間限定ストアとして神戸バーニーズNYに初登場」
- 2) 「世界初“ノンアルコール焼酎”を発売」
- 3) 「南堀江の寺で“花まつり市”、フリペ専門店から有機野菜まで」

1) 「DEAN&DELUCA、期間限定ストアとして神戸バーニーズNYに初登場」

2011年3月でオープン1周年を迎えたバーニーズ ニューヨーク神戸店。それを記念して、4月8日(金)から4月17日(日)まで、同じくニューヨーク発の食のセレクトショップ「DEAN&DELUCA(ディーン&デルーカ)」の期間限定リミテッドストアが神戸店1Fに登場している。

「ディーン&デルーカ」は、「LIVING WITH FOOD——“食べること”とは人生を味わうこと」をテーマとする、1977年に創業した食料品チェーン。ニューヨークSOHOの本店をはじめ、全米に13店舗を展開しており、日本では2003年の丸の内店オープンを皮切りに、現在では東京・六本木、品川などにマーケットストアやカフェを11店舗構えている。食のセレクトショップというあたらしい概念のもと、本当に美味しいものを世界中から集めるという志と実践は、国内外の幅広く上質なブランドアイテムを取り揃えるバーニーズ ニューヨークのそれと通じるものがあるはずだ。

今回のコラボを記念して、「DEAN&DELUCA」と「BARNEYS NEWYORK」のロゴが裏表に配されたマグカップや、お菓子入りのミニトートバッグを限定商品として発売中。エプロンなどの普段は東京、名古屋のショップでしか手に入らない人気のアイテムも幅広く展開しているという。

阪神地区では一部商品がコンビニで扱われる程度で、期間限定ではあるが待望の初登場を待ち望んでいた人が多いかもしれない。ファッションと共にライフスタイルを提案する興味あるタッグマッチだ。

2) 「世界初“ノンアルコール焼酎”を発売」

焼酎王国・鹿児島酒造メーカーが7日、世界初という「ノンアルコール焼酎」を発売した。製造元は、後を絶たない飲酒運転の根絶をはじめ、焼酎を飲まなかった層にも口にしてもらうことで、一時のブーム後は減少傾向にある焼酎の消費拡大につながればと期待している。アルコール分0.00%の“芋焼酎”を発売したのは、日置市の小正醸造。芋焼酎を造る際と同じサツマイモ「コガネセンガン」や米麴を使用し、「小鶴ZERO」と名付けた。甘めの口当たりで、芋焼酎独特の芋の香りと後味。温めると、より豊かな香りを楽しめるという。

ノンアルコールビールが注目された2年ほど前から、約10人のメンバーで研究。試行錯誤の末、本来の焼酎製造工程と同じように仕込み、アルコールが発生する発酵の過程は行わずに蒸留する製造方法にたどりついた。

本物に風味を近づけようと100回以上の試作を重ね、どうしても不足する甘みや酸味は甘味料などで補って仕上げている。

県酒造組合によると、2009酒造年度（7月-翌年6月）の県内産の本格焼酎出荷量は14万4804キロ・リットル（25度換算）。06年度の15万5900キロ・リットルをピークに減少が続いている。10年度も2月現在、前年同期の92%にとどまっており、「今後は東日本大震災の影響も考えられ、出荷量の落ち込みが懸念される」（同組合）としている。同社の製造課長は「芋焼酎が主流の鹿児島では『ノンアルコールビールでは酒席で浮いてしまう』との声もあった。本物に比べれば風味など課題もあるが、ノンアルコールの新たな分野として定着し、焼酎ファンの開拓につながれば」と話している。

飲酒運転の取り締まりが厳しくなったことは良いことだが、酒造メーカーにとっては痛手だろう。ノンアルコール飲料はまだ主流とは言えないが、工夫によって生き残る術はあると思う。何事においても、変化に合わせた工夫が必要だと改めて思った。

3) 「南堀江の寺で“花まつり市”、フリペ専門店から有機野菜まで」

南堀江の萬福寺（大阪市西区南堀江1）で4月9日、手作り雑貨や古本、カレーとチャイ、有機野菜の店などが出店する「花まつり市」が開催された。同イベントは、萬福寺と背中合わせに立つビルの1階でオルタナティブスペース「Pulp」を運営する「Pulp Pictures」との共同企画。

400年以上の歴史を持つ同寺は、「島之内の萬福寺さん」として古典落語「親子茶屋」にも登場する浄土真宗本願寺派の寺。1958（昭和33）年に島之内（現在のアメリカ村）から現在の場所に移転した。同寺ではお参りや恒例行事のほか、1992年には「寺子屋プラバー」を発足し、文化教室や落語会、ライブなどの文化イベントを開いている。

Pulp Pictureが同寺でイベントを行うのは、昨年7月に開催したPulpのオープニングイベント以来2回目。メンバーの石原拓磨さんは「街の中にあるお寺だからこそできることがある。今回の共同企画が、『もっと外に向けて開かれたお寺に』という住職の思いと『街のいろいろなコミュニティーをつなげる空間に』というPulp Picturesの思いを形にするきっかけになれば」と話す。昨年の夏から行われていた改装工事が3月でほぼ終わりを迎えたため、今後は同寺を舞台に定期的にイベントを開催する予定だという。

釈迦の誕生を祝う4月8日の恒例行事「花まつり」に合わせて行う同イベント。境内の大広間や中庭を使って、ジャンルも活動拠点もさまざまな16組が一日限りの市場を開く。飲食は、有機野菜（2組）、カレーとチャイ、鹿料理とおにぎり、ジュース（以上各1組）の計5組。服飾品は、アクセサリ（3組、うち1組はジュース店を兼ねる）、服飾雑貨（2組）、帽子、小物（以上各1組）の計7組。そのほか、フリーペーパー、古本、本、紙と切手、家具（各1組）も。

「堀江に住んでいる人、堀江で買い物中の人、堀江をたまたま通りかかった人…いろいろな人に楽しんでもらえるイベントにしたい。開花予報によるとちょうど桜が見頃を迎えそうなので、お花見に出かけたついでにお寺に寄ってもらえたら」と石原さん。

お寺で行う物珍しさもあるが、お寺よりも気軽に入りやすいスーパーにも取り入れることができそうだ。地産地消コーナーが有るのが普通になってきている今、地元の農家だけでなく一般の住民も気軽に出品出来るようなコーナーを作ると新しいコミュニティーの形ができ、より地域に密着した人に好かれるスーパーが出来るのではないかな。